

選手は全員正社員



「ノジマステラ神奈川」菅野将晃GM兼監督を訪ねて

ワールドカップ優勝後、急速に人気の高まった日本女子サッカー界へ、神奈川県を中心に事業展開する家電量販店ノジマが参入表明したのは平成二十三年暮れのこと。翌年二月にはチームが創設され、その後の快進撃は目を見張るばかり。昨年度の全日本選手権では三回戦に進出、入替戦を制し昇格を果たしたチャレンジリーグでは本年度いきなり優勝戦線に絡む勢いだ。女子サッカー界に新風と衝撃を巻き起こしている「ノジマステラ神奈川」の菅野将晃GM兼監督（五三）を訪ね、「神奈川のステラ（イタリア語で星）」を目指す意気込みを聞いた。

——創設二年目のチームが順調に力を付け、なでしこリーグ入りも視野に入ってきた。原動力は何でしょうか？

菅野 チームを結成した時、なでしこリーグの選手三人が移籍して来ましたが、他は大学・高校を卒業したばかりで戦歴はこれからという選手。しかし、トレーニング次第では伸びる力を備え、なでしこ入りを目指す高い志も持っていました。また、ノジマの社員として生活が保障され、専用グラウンドも新設、女子サッカー選手として、恵まれた環境に身を置くことができた点が大きかった。

アルバイトを続けながらプレーを続ける選手が多い女子サッカー界にあつて、ノジマは全員正社員。午前中は店舗の店員

などとして接客・販売に従事し、移動時間を挟んで午後三時から相模原市新戸のグラウンドで練習という日課を送る。グラウンドに併設して全員個室の寮も建ち、フアローは万全。

——チャレンジリーグ入りを果たすまでには、厳しい試合もあったと思いますが…。

女子サッカーは頂点になでしこリーグがあり、その下にチャレンジリーグ、さらに関東や関西などの地域リーグ、またその下に都道府県リーグがあるピラミッド形式。ノジマステラは最も下位の神奈川県リーグ三部からスタートした。そこからチャレンジリーグ入替戦への出場資格

グラウンド破格の厚遇に志高く

を得る唯一の道は、リーグ戦とは別に行われる全日本選手権神奈川県予選で優勝したうえ、同関東予選ベスト4進出が条件だったが見事クリア、その後の入替戦も勝利した。「しびれた試合」と監督が明かすのは、その武蔵丘短大戦のこと。

——ステラ監督に就任する前、なでしこ

菅野 負ければ敗退という全日本選手権関東予選の二回戦でした。相手は武蔵丘短大という関東リーグ二位の強豪で、前半は0-0。後半に入つて先制点を奪われた時は「こまでか」と思い、体がブルブルつて震えました。幸い逆転できましたが、最高にしびれた試合でした。

リーグ所属のTEPCOマリーゼで指揮を取っていました。二年連続三位の成績を収め、いよいよ優勝を目指そうという平成二十三年、東日本大震災と東電福島第一原発事故に見舞われ、休部を余儀なくされました。

菅野 地震と事故は、宮崎でキャンプを行つてるとき起きました。実は選手の半分は福島第一原発が職場。当然練習どころではありません。マリーゼ率いて三年目、優勝への手ごたえを感じた年でしたが、活動自粛、自宅待機、休部と続き、再開の見通しは全く不明。選手には、いつか必ずプレーできる状況が来る、と励ましていました。自分の人生の中で最も落ち込んだ時でした。

夏ごろから、チームを移管することによって活動の場を求めようと、多方面と接触を重ねた結果、秋にはベガルタ仙台が選手を受け入れ、ベガルタ仙台レディースとして再出発することが決まりました。その話が決まる前、知人を介してノジマにも検討してもらえないか、相談したのも事実です。

マリーゼのベガルタ移管が決まったことにより、ノジマとの話は破算に。交渉終了の挨拶に行った時、「出来上がったチームを引き受けるより、一からチームを作りませんか」と持ちかけると、ノジマ社長が

「ワールドカップ優勝メンバーのうち九人が神奈川ゆかりの選手なのに、神奈川になでしこチームがないのはおかしい」と関心を示し、話は急転回。十二月にはチームの設立を決定、暮れも押し詰まった二十八日に選手獲得のセレクションが実施されるなど、平成二十四年四月からの公式戦参戦を目指し急ピッチでチーム編成が進んだ。

——準備期間も全くないまま、GM（ゼネラルマネジャー）兼監督に就任し、選手やス

アカデミー開講し普及・育成

昭和五十四（一九七九）年、神奈川県立旭高校を卒業後、インターハイでの活躍が認められて古河電工に入社。MF/FWとして、Jリーグの前身日本サッカーリーグ一部で十三年間プレー、十人目の二百試合出場選手として表彰を受けたほか、Jリーグ発足後はジェフユナイテッド市原や京都パープルサンガにも在籍した。平成六（一九九四）年、現役引退後は協会からナショナル・トレセンコーチに任命され、指導者の道へ。京都パープルサンガ・ユースコーチを皮切りに大宮アルディージャや湘南ベルマーレの監督も務めた。

菅野 女子サッカーはW杯、五輪の舞台で好成績を取りましたが、日本の競技人口はわずか四万人。アメリカの二百万人に比べ圧倒的に少なく、W杯優勝は奇跡といつていい。底辺を拡充しなければ、成績も人気も一過性に終わってしまう。そのため、ノジマは

タフ集めに奔走、さらに関係機関への挨拶回り。大変だったですね。

菅野 現場で動いたのは私一人。慌ただしかったが、やりがいもあったし、未知の仕事に携わることは結構楽しいもの。それに、私は高校時代以降サッカー一筋の生活。今では、それが職業になったわけですから、これからは女子サッカーを通じて、サッカー界に何かを伝え、何かを残すことによって恩返ししなければ、と思っているの、平気です。

菅野 スーツに「赤い羽根」を挿した社会人を見て、すごくカッコいいと思った時代があります。

ステラのコンセプトは「人創り」「街創り」「元氣創り」。赤い羽根共同募金の標語が「夢・人の輪・支えあい」と聞き、私どものコンセプトと共通するところがあるように感じました。お互い、地域とともに生き、地域

から愛される存在でありたいですね。私どもも「赤い羽根」を応援しますので、皆さんもステラへの応援よろしくお願いします。

聞き手・神奈川県共同募金会

大谷義輝



©Nojima Stella Kanagawa

